



干し柿の甘さを利用した、さっぱり味のなますです。

## 柿なます

60Kcal

塩分  
0.4g

※一人分あたり

(材料)	(4人分)
大根	300g
干し柿 (大きいもの)	1個
塩	小さじ1
A 味付け	
きなこ	大さじ3
酢	大さじ2
だし汁	大さじ2
薄口しょうゆ	大さじ1/2
さとう	小さじ1/4



お正月料理に  
おススメです!

### (作り方)

- ①大根は皮をむき、繊維に沿って幅1cm、長さ5cmの短冊切りにします。
- ②①の大根に小さじ1杯分の塩を全体に振り、なじんだらよく洗って水気をきります。最後にぎゅっと絞ってしっかりと水分を取ってください。
- ③干し柿は、大根より小さめ(半分程度)の短冊切りにします。
- ④ボウルにAの材料を入れ、泡立て器などでよく混ぜ合わせます。
- ⑤④に②、③を加えてよくあえ、できあがりです。



▲海棠白頭翁 (1953年)

安来市は、これまで米原雲海や河井寛次郎をはじめ多くの芸術家を輩出してきました。没後50年を迎えた日本画家木村栖雲もその一人です。幼い頃から画家を目指した栖雲は、大正元(1912)年、旦那衆と呼ばれる安来の文化人グループの後押しを受けて京都に出て、宮崎竹叢に絵の指導を受けました。さらに東京に移って南画界の大御所小室翠雲の元で研鑽を積み、大正5年に文展で入選したのを皮切りに、文展や帝展で活躍しました。

この機会に今もなお多くの安来人に愛されている木村栖雲の芸術世界をご覧ください。《ギャラリートーク》  
1月14日(日) 13時30分から約1時間、安来市文化協会会長の原庸一さんが解説します。なお、観覧料が不要です。

美術館は1月11日から開館。毎週火曜日は休館。《開館時間》9時~16時30分(入館は16時まで)。《観覧料》一般1000円、学生500円、中学生以下無料。



安来市加納美術館だより 電話3610880

## 1月11日から「木村栖雲展」

新年の展示は、安来出身の日本画家木村栖雲(1885~1967年)の画業を辿る展覧会から始まります。

の展覧会への出品を取りやめ、画壇とのつきあいを止めて画業一筋の暮らしを愉しむようになります。

やがて江戸時代後期に活躍した田能村竹田に憧れるようになり、その画風を積極的に取り込み、繊細で味わい深い山水画や花鳥画を描きました。栖雲の作品は当時の文化人や政財界の人々に支持されました。作品には柔和で思いやりあふれた彼の人柄がにじみ出ています。

この機会に今もなお多くの安来人に愛されている木村栖雲の芸術世界をご覧ください。

### 《ギャラリートーク》

1月14日(日) 13時30分から約1時間、安来市文化協会会長の原庸一さんが解説します。なお、観覧料が不要です。

美術館は1月11日から開館。毎週火曜日は休館。《開館時間》9時~16時30分(入館は16時まで)。《観覧料》一般1000円、学生500円、中学生以下無料。

